



DEUTSCHE
SPORT
MARKETING

プレスリリース／2019年4月17日

東京2020オリンピック・パラリンピック：眺めのいいドイツ・ハウス

ドイツ選手団の集うロケーションがショッピングモール「アクアシティお台場」内に設置決定

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせ、東京都港区台場のエンターテインメントショッピングモール「アクアシティお台場」にドイツ・ハウスがオープンします。東京ベイエリアの中心に位置し、至近距離には多くの大会競技会場があるこのロケーションの目の前には、息をのむようなレインボーブリッジの眺望が広がります。この6階建てのショッピングセンターには、さまざまな機能を持つドイツ・ハウスが設置される予定で、中心となるのは5階のイベント施設「ザ・コルトーナシーサイド台場」です。コルトーナにはプール付きの広いテラスがあり、そこからは東京の素晴らしいスカイラインを一望することができ、通常はパーティーや写真撮影に利用されています。

ドイツ・ハウスのロケーションにふさわしい会場を探し、あまたの候補と交渉が繰り返された結果、この場所が2020年7月から9月の間、ドイツ・オリンピックチーム、パラリンピックチームのホスピタリティハウスになることに決まりました。ドイツ・オリンピックスポーツ連盟（DOSB）、ドイツ障がい者スポーツ連盟（DBS）のマーケティングを担い、ドイツ・ハウスの企画・運営の責任団体であるドイツ・スポーツ・マーケティング（DSM）社のクラウディア・ワグナー社長が、東京で本件に関する覚書（MoU）に調印しました。ワグナー氏は「私たちは『コルトーナ』という素晴らしいロケーションに出会うことができました。初めての視察段階ですでにファンになり、ビジョンが浮かび上がっていました。ここはオリンピック競技会場に近く、選手にとってもアクセスしやすい場所です。テラスからは最高の眺望が楽しめます。ドイツ・ハウスを特別な『アスリートのためのホーム』にするための十分な空間があります。東京2020で、連日素晴らしい祝勝パーティーを行えることを期待しています。」と語っています。

ショッピングモールのオーナーである三菱地所株式会社の細包憲志執行役常務も、「アクアシティお台場にドイツ・ハウスをお迎えすることができ、大変光栄に思っています。また、アクアシティお台場がドイツチームにとって格調高く快適な場となることを確信しています。」とドイツ両選手団のホームとなることを歓迎しています。

プロジェクトの実行に向け、DSM社を核に専門知識を持つ頼りになるパートナーが集結しています。すでに10度、共にドイツ・ハウスを成功させたメッセ・デュッセルドルフ社は、2020年のドイツ・ハウスでもこれまでの経験をオーガナイズ、プロジェクトマネジメント、実行に注ぎ込みます。メッセ・デュッセルドルフの責任者たちは、日本支社であるメッセ・デュッセルドルフ・ジャパンの担当者たちと共に2017年夏からドイツ・ハウスに適したロケーション探しに奔走し、30か所以上の場所を視察した末に、ここにたどり着くことができました。メッセ・デュッセルドルフ社のヴェルナー M.ドーンシャイト代表取締役社長も、「ドイツ・ハウスが今回もオリンピック・パラリンピック競技大会のホットスポットとなるよう、私たちが持つ国際的なコンピテンスを提供していきます。私たちは、20年にわたりこのプロジェクトに貢献できることを誇りに思います。」とコメントしています。メッセ・デュッセルドルフ社はドイツ・スポーツ・マーケティング社から委託を受け、2000年のシドニー大会からオリンピック会期中のドイツ・ハウス実現に貢献しています。2010年バンクーバーで開催された冬季オリンピックより、このパートナー関係はパラリンピック会期中にも拡大されています。

PROPROJEKT社とAS+P（アルベルト・シュペーア+パートナー）社も、プロジェクトチーム内で確固たる地位を築いています。彼らは2018年平昌大会で初めて設計・施工分野のタスクを請け負いました。今後は共同で、ロケーションに対するさまざまな要望を満たすコンセプトを立案します。

このフレキシブルなスペースにより、特にアスリートのあらゆるリクエストに応えることができそうです。理想的な空間だけでなく、2018年平昌と同様、競技会場の中心に位置することは大きなポイントでした。ドイツ・ハウスは、例えばビーチバレーボール、テニス、スポーツライミング、体操（以上オリンピック）、また車いすテニス（パラリンピック）のスタジアム、さらにトリアスロンのスイム（オリンピック/パラリンピック）など、さまざまな競技会場から半径3km以内の至近距離に位置します。またオリンピック・パラリンピック選手村やIBC（国際放送センター）/MPC（メインプレスセンター）まで6km、オリンピックスタジアムまでは約12kmの距離です。

ドイツ・ハウス/ドイツ・ハウス・パラリンピック – 概要：

オリンピック：

運営期間：2020年7月24日-8月9日

総面積：2,000 m²

予想来場者数：約700名/日、計10,000名

パラリンピック：

運営期間：2020年8月26日-9月6日

総面積：2,000 m²

予想来場者数：約600名/日、計7,000名

ドイツ・ハウス/ドイツ・ハウス・パラリンピックについて：

ドイツ・ハウスはドイツ・オリンピックスポーツ連盟（DOSB）によるスポーツ、政財界、メディアの代表たちのためのホスピタリティハウスで、1988年からオリンピック会期中、2010年バンクーバー大会からはパラリンピック会期中にも設置されています。DOSBとドイツ障がい者スポーツ連盟（DBS）はホストとして、毎日行われる記者会見などの重要なイベントに会場を利用します。ドイツ・スポーツ・マーケティング（DSM）社は、このコミュニケーション・プラットフォームの企画、オーガナイズ、実行の責任者となっています。

写真1+2： スカイラインを見渡すテラス

ドイツ選手団のための最高の眺め – 2020東京大会では「アクアシティお台場」がパーティー、観戦、情報交換の場となります

写真3： アクアシティお台場外観

ショッピングモールの背景には近未来的な風景が広がります

写真4： 東京でのMoU調印式

ドイツ・ハウス（パラリンピック）2020東京に向け、日独間で正式な協力合意に至りました

左から細包憲志執行役常務（三菱地所株式会社）、クラウドシア・ワーグナー社長（DSM社）、平井秀明代表取締役社長（株式会社サンボウ、「ザ・コルトーナ シーサイド台場」運営会社）

写真1+2 ©ドイツ・スポーツ・マーケティング（DSM）社

写真3+4 ©ドイツ・スポーツ・マーケティング（DSM）社/ピクチャー・アライアンス 撮影：松尾憲二郎